

製造 物流 販売サービス MONODZUKURI モノづくり

拠点のコスト削減

グループ連携 CO2も削減

アズビル プロダクションマネジメント本部プロダクション管理部配送グループマネジャー 杉本 丈幸氏

すぎもと・ひろゆき 86年東京理科大学卒、同年山武ハネウエル(現アズビル)入社。01年生産革新センター課長代理、02年山武中国(アズビル香港)出向、06年伊勢原工場予算管理担当マネジャー。神奈川県出身、50歳。

を同42万円削減した。通い箱の導入に伴い販売子会社側の入荷システムも改良したことで、入荷検品時間も最大5割短縮するなど、グループ内連携による大きな成果が得られた。

今後も、客先でゴミが出ない配送方式や配送品のセット納入などへの対応、CO2排出量削減に向けた改善活動を進める方針だ。また海外事業を拡大するため、海外物流拠点の整備も考えていく必要がある。(土井俊)

門で減に、注力して、年削減CO減す 業も販売ラ配送費用

戦略思考

物流改革

生出

連携先の1社である三井物産と抜き型を使えるかBCPの運用について相談



一見すると、同業の競合先に顧客情報や品質管理体など、手の内を明かすような行為だが、生出社長は「医薬品メーカーからは高く評価された。取引への安心感がかなり高まったよ」と手応えを感じている。

現在、注力するのは各社現場でBCPが動くようにすることだ。当たり

止められない 生出がBCPに取り組んだきっかけは得意先の要求を受けたことだ。生

止められない 医薬品メーカーから緊急時も薬供給は止められない」とBCP策定の要請を受けたことだ。生

出治社長は「たかが緩衝材と厚いかもしいが医薬品運送の際の温度維持や耐衝撃性などの機能が求められる」と説明する。社内では社員全員でBCPを運用できるように、社員一人ひとりに参加と理解を求めた。だが、「社内での活動だけでは限界がある」と生出社長と気が付き、同じ部材を利用している関東4社に連携を呼びかけた。

取引に安心感

一見すると、同業の競合先に顧客情報や品質管理体など、手の内を明かすような行為だが、生出社長は「医薬品メーカーからは高く評価された。取引への安心感がかなり高まったよ」と手応えを感じている。

現場が連携、解決策を共有

生出を含む5社の連携体制



前だが一番難しい。生出は「社長同士で現場にBCPや形だけの連携協定ではいざという時に機能しない」という。そこで現場担当者の顔合わせ。型のCADデータが他社でも使えるかどうか、型を他社工場に持ち込んでも加工精度にセットできるかどうか。実際に製造してみて、寸法精度が出るかどうか。見つけるのがリストかムダの連日だ。生出社長は「分析して解決策を考えることを繰り返す。社員の問題解決能力を伸ばす訓練にもなる」と振り返る。会社によっても、現場社員にとってよいのは急にBCPを掘り起こすよりも、普段の改善活動にリスク管理の要素

驚馬き 輸送技術



日立物流は日立製作所のサーバにストレージ(外部記憶装置)を冬季に配送・設置する際、製品に結露が発生しないよう対策を徹底している。北向秀一 神奈川営業部神奈川営業

サーバ配送時の結露対策/日立物流

業所長に聞いた。(戸村智孝)

1度差なくす

温度・湿度の数値条件(20℃、何時間の保管が必要になるかを体系的